



平成31年3月1日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢
(コード2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 開示担当 小竹 康博
(TEL 03-6225-2207)

**Group Lease PCL 2018年度通期黒字転換。
コンプライアンスならびに財務基盤の強化を達成**

当社の重要な子会社でありますSET（タイ証券取引所）上場のDigital Finance会社Group Lease PCL（以下GL）は、同社がSETに開示した2018年度の業績についてプレスリリースを公表いたしましたので、日本語訳にてご紹介いたします。

（以下、GL社公表のプレスリリースの翻訳）

当社 Group Lease Public Company Limited（以下、GLまたは当社）は、2018年度通年の業績を開示いたしました。通年の純利益は2億8千9百54万タイバーツ（日本円約10億2千万円*訳者注）を計上しております。同年度中には2019年度に向けてコンプライアンスおよび財務基盤の強化を達成しました。

GLの最高財務責任者(CFO)であるAlain Jean Pascal Dufesは今回の業績発表について「当社は、2017年度の純損失16億7百5万タイバーツ（日本円約56億円*訳者注）から2018年度純利益2億8千9百54万タイバーツ（日本円約10億2千万円*訳者注）の計上と黒字転換しました。売上高はほぼ前年と同水準となり、前年比5百万タイバーツ（日本円約1千7百万円*訳者注）減となりこれは0.2%減となります。また販管費は前年比1億3千4百万タイバーツ（日本円約4億73百万円*訳者注）、11.7%増（*訳者注前年2017年度の）引当等の特別費用を除く）となりました。今回の結果は、86百万タイバーツ（日本円約3億3百万円*訳者注）以上の法的費用、ソフトウェア特別償却費用53百万タイバーツ（日本円約1億87百万円*訳者注）を計上した上での収益結果となります。加えて、今回海外子会社の業績は、タイバーツ高が大きく悪影響いたしました。」と説明をいたしました。

GLの最高経営責任者CEOである此下 竜矢は「2018年度は、2017年度に起こった出来事に引き続き対応していくとてもチャレンジな一年でした。タイ証券取引委員会の指示により2017年度の業績修正を行い、当社に対する複数の訴訟に対応しながら、当社の株主価値を守るために自らも提訴し

て争い、事業の面では改善に注力し、最終的に利益を計上し黒字転換することができました。本業の業績改善は道半ばであると考え、更に改善するため、数々の施策を実行してまいりました。審査基準を継続的に改変して基準を強化し、IFRS9（来年度よりタイで施行される国際会計基準の新しい条項*訳者注）に備えてこれまでより保守的な引当の方針を採用しました。我々としては、これらの改善が2019年度以降に良い結果として表れてくると確信しております。

2018年度は本業以外の課題が多かったにも関わらず、年初よりご説明した通り計画通り事業を一時縮小したカンボジア以外のすべての国で事業拡大を達成いたしました。現在、当社のコンプライアンス等の法的側面は強化されており、今後は本業面において更なる改善と拡大に注力してまいります。また、現状、これは不運な面ですが、当社の事業展開している米ドルも含めての各国の通貨に対してタイバーツ高が進行しており、当社タイバーツ建て業績の重しになっております。これは一時的なものと考えており、一旦タイバーツ高が落ち着けば、各子会社の成長が（タイバーツ高に苦しんだ2018年度よりも*訳者注）より強い成長として取り込んでいけると考えております。我々は我々の事業とその将来性に自信を持っております。2019年度は我々にとって素晴らしい年になると確信しております。

以 上